

住宅政策及び中心地域調査特別委員会

日 時 令和5年2月13日（月）

13：30～15：30

場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：なし）
説明員 丸山副町長、島山企画課長、金田室長、坂本農林課長
書 記 浅田局長、花倉書記

○近藤委員長 定刻になりました。只今より住宅政策及び中心地域調査特別委員会の第10回目を開会いたします。本日は企画課所管事業であります中心地域整備と、農林課所管事業の林業アカデミーの住宅整備を議題としております。本日は町長に出席をいただいておりますのでより一層活発な質疑の展開を期待致します。それでは、まず最初に企画課所管事業中心地域整備についての説明を求めます。中村町長。

○中村町長 改めまして皆さんこんにちは。本日は住宅政策及び中心地域の特別委員会ということで、私の方も出席させていただきながら皆様方にご説明をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。最初に中心地域整備についてという協議事項内容でございますけれども、詳細につきましては課長の方から答弁をさせますけれども、この中心地域の中の動きにつきましては、道の駅の下側にアパートという形を建設をし、今入居していただいている状況がありますけれども、それ以後具体的などころの青写真が進行ができてないというところがありまして、私としても深く反省をしているところでございますが、新年度に向けて具体的に進めましょうということで私の方からも指示をさせていただきました。生山地域から霞のエリアに向けて、あるいは山手の災害と言いましょか赤線あるいは赤線っていうか、そういったところの一部ありますのでそういったところの防災的な見地も含めてですが、具体的に令和5年度から具体的に進めるよう、ということで指示をしましたので、そのことは報告をさせていただきたいというふうに思っています。内容につきましては課長の方から報告をさせますのでよろしくお願ひしたいと思います。

○近藤委員長 島山企画課長。

○島山企画課長 失礼いたします。そうしますと令和5年度からの中心地域整備について説明の方させていただきます。12月本会議の一般質問において、町長から答弁がありましたけれども、令和5年度から生山から大田原・霞地区一帯のいわゆる中心地域について改めて整備、検討を始めたいというふうに考えております。町長の方から中心地域について検討事項が指示されておりますので、令和5年度から各課による課題整理、役割分担を行ってまいります。令和5年度令和6年度の2カ年をかけて新たな中心地域整備計画を策定し令和7年度から整備の方を開始する予定としております。企画課としましては令和5年度から住民アンケート、住民参加型のワークショップの開催。各課の課題整理の進捗管理を行ってまいります。計画策定におきましては、コンサルタント事業者への委託を予定しております。アンケート、ワークショップ、課題整理、整備手

法の提案など複合的に推進してまいります。いずれにしてもウッドカンパニー日南、日南プレカット、かすみ荘など他課にまたがる案件も多い状況でございます。関係課と綿密に情報共有しながら進めてまいりたいというふうに考えております。議会の皆様にも逐次情報共有しながら進めて参りますので、またご意見を頂戴できればというふうに考えております。以上簡単ではございますけれども令和5年度からの中心地域整備についての説明とさせていただきます。

○近藤委員長 5年度から具体的に中心地域整備について課題や役割分担等いろんな形での取り組んでいくという報告でありました。これについての質問を求めます。大西委員。

○大西委員 中心地域につきましては、もう10年ほど前から4つのいろんなプロジェクトがあり、アンケートも取り、いろいろやってきておりました。そこで商業施設であるとか、福祉施設であるとか、教育どどん4つの部門で今の進めてきたわけですよ。その総括とこれからやるということを明確にしてやらないと、いくらコンサルを入れてもどうなのかというのは危惧します。なぜそれをコンサルにするのですか。以前も確か私は記憶で500万円使ってアンケートをとって、鳥取大学とかいろいろやった経過、10何年前です、私が自治会長してた時です。本当に今回やるならば、もう少しきちんと念密な計画、ある程度スケジュールを立てて今口頭で言われましたけれども、まずその計画をきちっと作っていただきたいんです。そしてそれに基づいて説明をしていただきたいんですがどうでしょうか。

○近藤委員長 中村町長

○中村町長 委員おっしゃるように、ゾーンを分けて進展をしてきたというふうに思っております。商業ゾーンの中でも今現時点でもコンビニであるとか、あるいは道の駅あたりも実施してきた経過があります。その裏側についての課題、エリアについての課題っていうところがこれからの課題だろうというふうに思っておりますので、ひとつはですね。ですからと言いますのも、あそこはすでに民間企業の営みがある場所でもありますので、そういったところの交渉がこれからの絵作りの中で、時間を要するところもあるというふうに思っております。いずれにしても一定のスケジュール感を持ちながら、皆さん方にもお知らせしながら、進めていくべきだろうというふうに思ってますし、相手方がある話でもありますので、多少所要の時間が要するところはあるかもしれませんが、きちんとした方向性の町としてのこれからのあり方を決めていきながら、交渉に進む、あるいは整備をしていく、そんな形かなというふうに思っておりますのでご理解をいただければと思います。

○近藤委員長 大西委員。

○大西委員 お願いは、先ほど生山、大田原、霞この地区を中心ということですがけれどもやはり自治会、町民の声、よくもう決まったからじゃなしに、いろんなことを綿密にやっていただきたい。やはり自治会の皆さんは町民の声でございますので、そういった会をできるかぎり設けていただきたい。そうでないとやはり乖離してしまいますので、考え方になりいろいろ。一つ危惧するのは、確かにアパートとかいろいろ建てられました。私の自治会の役員してた時に、実は生山の中のひとつのアパートなのです。ここする時には総務課長、私を覚えております総務課長も町長も来て、そのアパートについて自治会に入ってくださいよ。という自治会が要望がありました。3年間ぐらいは自治会に入られましたけれども、あとはもう一切無い状態がずっと続いております。地域コミュニケーションとか地域防災、ゴミ出し、色々地域の問題があるわけです。こちら

から自治会から言うんじゃ町が、町を関係する建物を建てたり、住宅とかアパートする場合は、やはり都会ではそんな自治会には入りません。というのも多いかもわかりませんが、やはり日南町にとっては地域コミュニケーション重要だと思います。若い方が来られたと、何かあったときは助けて頂けると、いうこともありますので、その辺は強く要望したいのですがいかがでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 先ほど申しあげましたように、ワークショップだとかそういうことも当然入れていくべきだというふうに思っておりますので、そういった一連の流れの中で、地元要望って言いましょうか、そういったところも組み入れていく必要性はあるというふうに思っておりますので、ですから、先ほどのお話の中では自治会要望って話もあったというふうには勿論理解しておりますけれども、少し年が経過してますので、そういったところは改めてというか、そういったところも確認しながら推進していきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 生山から霞の中でも大田原地域、非常に町民にとっても町にとっても有効な土地でありますし、有意義に使うべきところでもありますけれども、5年度に向けて計画を立てられるということなのだと思いますけれども、基本的な設計のコンセプト、理念というのは、やっぱり町としてしっかり示すべきだと思いますし、大西委員が言われたように、その中で町民の意見をしっかりと捉えて、構築する必要があると思いますが、そのプロセスについて改めて説明お願いしたいと思います。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 委員おっしゃるように、この地域は町内におきましても、人口が多いエリアでもありますし、有効な土地が一定の広い面積があるというふうに思っておりますので、有効活用というのは、これからの町づくりの中で有効活用するっていうのは、そのとうりだというふうに思っています。ただいろんな面で課題、これからの課題解決をしていかないといけない内容っていうのもたくさん、それは土地利用計画的なところも含めてですが、そういったところを時期的なことも多少前後する部分あるかなというふうに思っておりますが、基本的には委員おっしゃられるように、この土地はこういった形の中で利活用するんだということはある程度行政側としても執行部側としても理念を持ちながら、課題解決のための有効な土地利用を考えていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 しっかりと議論をしていただきたいと思いますが、日南町の抱える喫緊の課題として、やっぱり若者の定住だという事。本当に子供の人数の減少、あるいは高齢化という状況も踏まえて、やっぱり若者をいかに町内に住んでもらうかというところを中心に、発想を捉えていただきたいと思うのが一つであります。ともう一つは、その裏山がレッドゾーン、イエローゾーンの区域である。そこに建物を建てるということになると、かなりの防災擁壁等が必要になってくるわけですが、一つとしての私の案としては、やっぱりその広場、子育て世代から遊園地、公園の要望は強く出ております。その文化センター前の芝生化っていう話も要望も出ているようですけれども、いずれにしても大田原の地域で広い公園などを整備すればいいの

かなど。大量の降雨、降水量があった時なんか一時的に閉鎖をするというようなことで安全対策が取れると思う。建物を建てるということになると、かなりのコストがかかるということになります。非常に若者の要望の強い公園整備などが有効ではないかなと私の案であります。いずれにしましても、しっかりとしたコンセプト理念を持って、具体的な計画にあたっていただきたいということを申し上げておきます。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 ご意見ありがとうございます。委員の皆様の懇談会の際にもそういった話があったというふうに記憶しておりますし、また私ども先般、商工会の青年部辺りとの意見交換の場を持たしていただく中で、そのようなお話も改めて確認させていただいております。ですからそのことも含めて、ということだと思っておりますので、どういった構成ができるのかということとはちょっといろんな広い視野の中で一つ一つを整理をしていく必要があるかなというふうに思っております。進捗の中で皆さん方にも報告をさせていただきながら、その辺は確認しながら、着実な進展を図っていきたいというふうに思っております。よろしくお祈りします。

○近藤委員長 久代委員。

○久代委員 今回僚委員がおっしゃいましたけど、レッドゾーンの関係ですよね。森林組合が新しい事務所を作るということで、臨時総会を一時延期して、レッドゾーンになるということでありましたけれども、そこは一応、生山ですよね。ですからまずはレッドゾーンをどういうふうにかちんと解消するのか。ということが第一だと思います。それともう一点、住民主体のプロジェクトチームを考えてやられるのか。5年度6年度と2カ年にわたっていろいろプロジェクトをするということなんですけれども、住民が参加型のアンケートまずはとられるということなので、その後どういうふうに関心地域を考える会みたいなものを住民主体で作れるのかどうなのか。その辺の手法について、もし案があれば、新年度の予算の審査の中でお聞きすればいいのかもしれませんが、今考えておられる手法について教えて頂きたいと思いますがどうでしょうか。

○近藤委員長 島山企画課長。

○島山企画課長 失礼します。委員からのご質問でありまして、どのように進めていくかというところでございます。基本的には住民ワークショップを中心に進めていくことになろうかというふうに考えております。基本的にはゼロから住民の皆様はどうしましょうかという投げかけのアンケートをするということではなくて、平成30年にも町づくりアンケートをさせていただきまして、ある程度住民さんからの意向というのは町としても把握しております。それに町長からの指示事項がございますので、ある程度の絵をこちらの方で描かせていただいて、それを元に住民の皆様とワークショップで議論をしていくというような形になろうかと思っております。タイムスケジュール的なところでいきますと、令和5年度につきましては先ほどもちょっと説明させていただきましたけれども、各課それぞれ抱えている課題がありますので、まず課題の整理をしていく。いついつまでに個々の課題を整理していくというところをしていきたいと思っております。またレッドゾーン、イエローゾーンのことも、ある程度の方針が決まった段階で、レッドゾーン、イエローゾーンの解消に着手してほしいという指示が町長の方から建設課の方に出ておりますので、そのように進めてまいりたいというふうに思っております。

○近藤委員長 久代委員。

○久代委員 レッドゾーンについては、きちっと解消するという考え方を再度確認しておきたいと思います。町長の答弁でいいですけどどうでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 基本的には水路がありますし、また山手からの水の流れっていうところも中途にあります。ということの環境がありますので、いずれにしても雨水等の排水的などころの工事っていうか、どういう形になるにしても最低限はそこは必要だろうというふうに思っています。合わせて土地利用の中で、建物的なところを建てるのか建てないのか、あるいは用途ですよ。基本的な用途によって多少その擁壁のその防災的などころの大きさ、どこまですればいいのかっていうところの基本的なところがありますので、そういったところの目的、土地の利用目的っていうところを基軸にしながら、防壁あたりの大きさ大小を決めていく必要があるというふうに思っています。合わせて重ねてになりますが、大雨の時に山手のところからの流れが現在ありますので、そういったところの処理は最低限必要ではないかなというふうに思っておりますので、その辺はちょっと具体的な話詳細はこれからの内容にしていきたいというふうに思っております。ですから多用途な皆さんが思われるケースだとか建物だとか、いろんなケースによって変わってくるのかなというふうには思っておりますので、ただいずれにしてもレッドとイエローがあるというのは現実でありますので、その解消をできるだけっていうか、どういう形でできるかということ検討の中で進めていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 久代委員。

○久代委員 それとあともう一点、町長は選挙政策の中で日南病院のことをおっしゃって、それから同僚委員の一般質問でもありました。あのエリアをどういうふうに考えていくのかということについては、今後検討されるということなのですけれども、日南病院は今、生山にあって大事な自治体病院として皆さん利用されているわけですが、もし日南病院を仮に将来改築されるにしても、現在の病院のあるところに建て替えるのかということも含めて、やっぱり検討していく必要があるんじゃないかというふうに思いますが、町長の考え方をお聞きします。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 ご指摘の通り、今病院の方の来年度から改築になるのか新築になるかは別として、病院のあり方については検討を進めていく予定としております。ですからその中でどの段階でというところが不透明というふうに思っていますが、早いうちに病院の中でも場所っていう所だとか、財政のことがありますとか運営形態のあり方だとか様々なことをトータルに検討していただくことを想定しておりますので、その中で場所がどうかって話は、トータル的な話の中で方向付けの議論する場が当然あるというふうに思っていますので、その中で皆さん方のご意見をいただきながらではありますけれども、この中心地の中でっていう話も出てくるかもしれませんので、そういったところも含めて中心地域整備の中での場所のあり方については一緒になって考えていく必要性は残している。というふうに思っていますので、そういう意味でのちょっと幅広いというか先ほど申し上げました5年度か6年度っていうふうに申し上げましたのも、その辺の視野も検討に入れながらということを含めていただければというふうに思っております。ただ現時点で、あそこにとか限定してるものではありませんので、そういう考え方を現時点は持っておりま

すので、いずれにしても有効な病院も含めてですが、これからのあり方の解決に向けての場所設定等をして行きたいというふうに思っております。

○近藤委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 今回こうやって中心地の整備の構想、新たなものが町長から説明がありまして中身についてではなくスケジュールについて、ということでございますけれども、冒頭、令和5年度6年度ということで計画を立て、7年度から工事とか実際にかかっていくということですが、これまでの経過を見て色々と私も思うところがございます。色々と計画を立てると言いつつ計画期間が例えば2年間あった3年間あったとしても、最後は駆け込み状態で、必ず住民の意見を聞きましてような格好になってしまうとか。本当にギリギリになって出来上がるというようなパターンが非常に多くございます。7年度から工事とか着工するのであれば実際にこの5年度6年度の間でもう7年度予算を立てないといかんですわね、そういうことを考えたら非常に計画の期間というのは短くなります。そういうところをしっかりとスケジュール管理これをしていただきたいと思います。それと計画案ができた、いろいろプロジェクトチームを立ち上げながらやれると思うんですけども、アンケートを取りながら、住民意見を汲み上げながら、やって行かれると思うんですけども、最終的なその案ができた、場合格好だけのパブリックコメント。3月末にパブリックコメント。決してそのようにならないように、いわゆるできた計画に対して、再度本当に町民の意見を、もう一回汲み上げていただく。そういうふうな形の計画進行をお願いしたい。これは強く要望しておきます。それともう一点、中心地構想におきまして、やはり以前からありましたコンパクトビレッジの構想。いわゆる大田原の地域というのはもちろん地域住民もそうでありますけれども、町全体としての非常に重要な場所であります。やはりそのところをしっかりと考えていただきながら、貴重な日南町の中心地という位置付けのものを周辺地域からしっかりと日南町に必要な物はあの中に残すんだ、というポリシーを持って地域というのはこれまで開発を進め、いろいろな施設ができたものであります。やはり本当にこれは貴重な場所だと私は思っております。これをしっかりと有効な活用、そういうものを計画の中に含めながら町民とのコンセンサスを取りながら進めていただきたいというふうに強く要望致します。以上です。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 ご意見の中で、もちろんおっしゃられるようにコンパクトビレッジ構想というところの中の動きの中で、今までできてきたというふうに思っていますし、また将来におきましても、やはり人口減少等のある中でいかに地方創生を推進して行くかという捉え方の中の考え方で進んできておりますので、基本的には変わらないというふうに私も思っていますし、また政策立案にあたっては、住民のご意見あたりもしっかり確認をさせて頂きながら、進めていきたいということは念頭に思っておりますので、引き続き皆さん方のご意見等も加えながら推進をして行きたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○近藤委員長 大西委員。

○大西委員 改めてスケジュール感の関係なんですけど、先ほど5年度6年度、そして7年度に整備すると。3カ年の計画ですね。私は思うのに、この大田原、霞、生山といった時に5カ年計画の中で、2年間で充分熟知計画して整備は3年度4年度こうやっていくんだということでない

と、大変だと思うんです。その中で一点確認しておきたいのは、大田原でウッドカンパニーの今後、そしてプレカットの今2年ほど前に契約延長しました。その辺のスケジュール感は、町長はどのように認識されていますか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 おっしゃるとおりであろうというふうに思っております。工事の方は7年度からというふうな説明をさせてもらいましたが当然1年間で終わるものではありませんので、その辺のスケジュール感っていうところもしっかり捉えながらというふうに思っていますし、当然その中にはやっぱり財政的なところ、町の財政的なところっていうことを加味しながら、順序はどういう形になるかわかりませんが、防災上必要であればそっちの方を優先的な動きになるというふうに思っていますし、いずれにしても計画的なものにスケジュール感をきちんと持った形での進捗を図っていききたいというふうに思っております。

○近藤委員長 大西委員。

○大西委員 生山の生山の大田原の水路の件ですが、これは企業局要するに小原水系からずっと生山の水路で、これ県の企業局ですけども、そこよく連携をとっていただきたい。水路はすべて県の関係なので、そういった形で県とも十分に調整が必要だと思うんです。先程イエローゾーン、レッドゾーンの話もありましたけれども、どこまで県ができるのか町がするのかという意味も大変重要なところでございますので、そのへんも自治会とよく詰めていただきたいという要望しておきます。もう一つは、最後になりますけど消防署の裏の事業所についてはあそこはもう町所有地なんですか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 委員おっしゃられる2点ありましたけれども、水路の関係であります。もちろんその関係は整理をしていかないといけないというふうに思っておりますが、ただちょっと今の見解が違いがあるかもしれませんが、改めて確認をする必要、進捗の中で確認をしていききたいというふうに思っておりますが、基本的に水路は企業局の方から修繕等は逐次されておられます。ただ所有者について、私は自治会だというふうに思って、ですからその中で、多少今までの関係が上流との関係があって修繕を充分ではないにしてもされているという流れが、というふうに私は思っていますので、ですからそこは違うって話であれば再確認をさせていただきたいということは申し添えておきたいというふうに思っております。また消防署の裏について、今バスの関係の事務所にさせてもらっておりますが、あのエリアは町のものだというふうに、町有地ということで整理をさせてもらっております。ですからあの辺も今後の活用の中の一部として整理をしていく必要があるというふうに思っております。

○近藤委員長 大西委員。

○大西委員 先ほど水路の件につきましては、自治会の持ち物でもない。これ企業局ですのでそして環境作業として春と秋は草かりと泥上げ等々、これは自治会としてやってるだけでその水路自身は自治会の持ち物ではございませんので、確認してください。私も確認致します。

○近藤委員長 その他ありませんか。久代委員。

○久代委員 冒頭の説明で、かすみ荘のことについては触れられませんでしたか、整備のなかで。ちょっと確認をしておきたいと思いますが、川向こうの話なんで。確認をしておきたいと思

います。中心地域のエリアではないということで確認しておきたいと思いますがどうでしょうか。

○近藤委員長 島山企画課長。

○島山企画課長 かすみ荘につきましても、一帯的にその活用を検討していくように今計画しているところでございます。

○近藤委員長 その他ありませんか。坪倉委員。

○坪倉委員 改めて確認させていただきたいんですけども、レッドゾーン特に、あそこの対策ってというのは県が行うにしても町が行なうにしても膨大な費用と時間がかかるということだろうと思いますが、その上での計画の立て方っていうのもあるのかもしれませんが。もう一つはそこのあそこにある砂防堰堤の機能不全っていうのは数年前に指摘されて、調査もされていましたが現在その状況はどういう状況でしょう。

○近藤委員長 島山企画課長。

○島山企画課長 砂防堰堤につきましては、数年前に泥上げでありますとか改修を行っておる状況でございます。

○近藤委員長 ありませんか。自分の方から1点ほど。今まで委員の方からスケジュール管理をしっかりしてほしいということと、それに合わせまして、この開発整備事業をするにおいてコンセプト理念をしっかりして欲しいという意見がありました。このコンセプト、理念を今からワークショップやアンケートなどで示されるのかもしれませんが、それをいつの時点でこれが一番重要だと思いますが、いつの時点でコンセプトをしっかり提示できるものかお伺いしたいと思います。中村町長。

○中村町長 理念コンセプトって話になりますけど、基本的なところはもっておりますけれども、具体的なその利活用については、先ほどお話がありましたように例えば一つの例ですが、病院でありますとか、それと委員おっしゃられたように若者の皆さんが要望されているような広場的なところだとか、いろんなところを検討はして行きたいというふうに思っておりますが、そういったところも含めて一言言うと、ちょっと曖昧なところも出てくる話かなと思っておりますので、ですからどの段階で言うところは、ちょっと今日の段階ではなかなか申し上げにくいのかなというふうに思っておりますが、基本的なところをある程度方向性を決まった段階のなかでは、お示しをして行きながらワークショップ等につなげていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 ないようですので続きまして農林課所管事業、林業アカデミーの住宅整備について説明を求めます。中村町長。

○中村町長 失礼します。そうしますと農林課所管の林業アカデミーの住宅整備についてということで、以前皆様方にもご相談をさせて頂きながら、というふうなところの経過があるというふうに思っておりますが、その中で皆様方のご意見で、現在のアカデミーに入ってる生徒の皆さん方の住まいについてのアンケートということでご意見があった中で、本日も示させて頂けるような集計結果をお知らせをさせていただきたいというふうに思っております。それぞれの現状によってお考えによって年代もいろいろありますけれども、こういった結果でありますのでお知らせをしたいというふうに思っております。その中で今後のことも含めてですが、やはり特定と言えればおかしけれど、寮的などの中での考え方で推進をさせていただきたいというふうに私は思っておりますので。と言いますのも現状もそうですけれども来年度あたりも新規農業の方が4人、

あるいは林業の方も現時点ですが 11 人の学生が入ってくるという予定であります。現在いろいろ従来もそうですが農業者研修生と林業のアカデミーにこられる皆さんの住まいの調整とさせていただきますながら現在申し上げますとひだまりであるとか、あるいは石見西であるとか、あるいはどう言いますか一部では町営住宅の活用、あるいは空き家を活用されるとか、そういう形のほうが続いているという状況にあります。来年はまた地域おこしの協力隊だとかそういった皆さんへのどう言いますか募集を高めていくということもしておりますし、また林業のアカデミーを卒業された皆さんが町内就職するという形の中で、定住という形にながれていきますので、そういったことの流れから行きますと、やはり全体的に住まいというのが足りないというふうに思っておりますので、特にアカデミーであります林業アカデミーで特化した話をさせていただくと、定員あたりを越すような入学の皆さんが継続しておりますので、将来的にもこの形を続けていきたいというふうに思っておりますし、またできれば広域的な関知からも含めて、周辺の皆さんもやはり林業関係の担い手づくりっていうのは一つの大きな課題であるというふうな認識をお持ちですので、それをやっつてるのが日南町でありますので、そういった周辺の広域的な皆さんとの連携の中で担い手づくりについてはこの町でということ、あるいは事業の違う部分については、ほかの町がしてくれるとか、そういった協力的な体制を作っていくこともこれから考えていきたいというふうに思っています。そういった意味で申し上げますと、林業アカデミーの恒常的な学生の募集の一躍になってほしいということも含めてですが、改めて多里地内のほうに林業アカデミー用の寮って言いますか、宿舎というところを建設をさせていただきたいことを今回の中で、報告をさせていただきたいというふうに思っております。なお地元にも以前から要望が出てとって、地域内という話の内容と場合によっては新築でなくて古民家的な空き家の利活用も検討してほしいというような内容が要望の中で出てきておりますけれども、先般まだ一部の方ではございますが、まちづくり協議会の方の役員の皆さんにもお話をさせていただいて、基本的なこの方向についての同意は得られたというふうに思っておりますが、ただこれから地域の中の更なるコンセンサスは高めていく必要があるというふうに思っておりますので、それに私のほうも出向いて、お話をさせていただきたいというふうに思っております。財源的には環境税あたりを中心にしながら進めていきたいというふうに思っておりますし、今までの基金も含めてですが、できるだけ環境税も国のほうって言えばおかしですが、これから実際に国民の皆さんから徴収するような時期が到来するなかで、基金がどんどん溜まっているという環境は良くないという話を聞いておりますので、基金はそういう形じゃなくて、できるだけ環境税の使途に沿った形での取り扱いをしてほしいということもありますので、そういったところも含めて恒常的な森林環境税もありますので、そういったところを財源にしながら、進めさせていただきたいというふうに思っております。冒頭の報告については以上であります。

○近藤委員長 10月12日の第8回目の当委員会におきまして、皆さん方から特に要望があった意向調査であったりニーズ確認などを、ということをしてほしいというようなそれに基づいた検討してほしいというような意見がありまして、本日ここにアンケートの内容について示されております。それも踏まえましての質問等お願いします。櫃田委員。

○櫃田委員 まず林業アカデミーの今後、どのように考えられておるのか。最初はやはり全国初の町営アカデミーということで全国に注目されました。そして就職も町内の事業所に、かなり

ある程度就職されております。林業従事者を育てる育成するということで確かに町内でなくて、県外も当然あると思います。それはそれで林業従事者が多くなるということでもよろしいかと思いますが、やはり一期二期の卒業生が、町内の林業事業体へ就職されて、町内の林業事業体もある程度は賄えてるというところがあると思います。今後例えば今後です、先ほど言ったように今後どのように、これからどんどんますます増えていくと思われるのか、どのような感じになると思いますでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 全国的にこういったアカデミー的なところの専門学校も含めてですが、どんどん増えてきているっていうふうに思ってます。新しく北海道だとか、そういう所も加わって来ておりますので、ただほとんどが県立的な学校が運営母体とすれば、そういう形ですので、町営というのは多分現時点ではうちだけかなというふうには思っています。中国地方でも島根県うちだけですし隣の兵庫県は兵庫県でありますし、四国は2つぐらい徳島もありますし高知もあるっていうようなことではないのかなというふうに思っています。そういった中で1年間に定員がそれぞれ学校自体が違いますけれども、多くは20人とか30人とか、島根県はそれぐらいだというふうに思っておりますが、ですからそれができても当分の間は充足するってことはないというふうに思っています。今、真庭市だとか林業が盛んな真庭市だとか津山だとか新見だとかって話の皆さん方との話を聞く機会もあるんですけども、やはり現実的には担い手不足っていうところは大きな課題というふうには認識されておりますので、これから日南町で1年間学習された後、それぞれの地域に帰るっていう話はあるかなという、今後も、やっぱり必要性は高まっていくっていうふうに私は思っています。ただ全国的にご案内のように今針葉樹あたりが戦後植えたものが間伐あるいは皆伐というような動きになっておりますので、それに追いついてないというのが現状だろうというふうに思っています。また町内でも多くの会社が、林業の関係の会社がありますけれども、やはり少しずつでもこの林業アカデミーを卒業した皆さんにも採用していただくっていうことのお願いはこれからして行きながら、会社自体を拡大して欲しいというふうに思っておりますし、そのような発言をこれからもして行きたいというふうに思っております。ちょうど令和4年度この春卒業されるみなさんがおられますが、現時点でございますが町内の企業にお2人入っていただくっていうことで、その企業は新しい会社の中に入っているっていうことの流れができておりますので、より地域の皆さんの会社とアカデミーの関係づくりと言いますでしょうか、そういったところも高めていきながら、会社としても毎年っていうわけにもならないというふうに思っておりますが、そういったコンセンサスを充分にとりながら町内にあるいは県内も含めてですが、そういった形の役割を今後も続けていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 櫃田委員。

○櫃田委員 わかりました。どんどん林業従事者が育って、林業のまち全国的にもどろんどろんんな所へ行っていただきたいというのがあります。それで確かに林業アカデミー専用の住居、そのものが確かに、寮ですか、あれば確かに外に向けた広報的なこと、PRに関してはすごくインパクトはあります。ただやはり林業アカデミーの生徒は一年で、それで町内就職する、あるいは県外へ出る、それはそれぞれあると思います。先ほどおっしゃったように農業研修生も確かに増えてきてる、住居が必要な部分もあります。場所的には、そのどこかある程度の地域を考えられ

ておられるのでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 農業に関しての住まいの捉え方って話だと思いますが、基本的には原則論ではないですが、一般的にはやっぱり農地との近いところっていうのが一番住まいとすれば望ましい姿ではないのかなというふうには思っておりますが、ですから今の研修生の中でも決して、すぐ隣で他の地域から通っておられる皆さんもおられますので、いろいろの研修期間中かなというふうには思っております。ちなみに農業の皆さんもいろいろな空き家を活用されたりとか、そういった皆さんがどちらかというところが多いのかなというふうには思っていますし、また石見西を利用されている方も多い傾向かなというふうには認識しておりますので、ですからやはり農業でも形態っていうか、それによってもまたその必要なエリアっていうところは拡大したり、あるいは本当に近くっていうところも当然望ましい姿というのは思っておりますので、そういったところはこれからも研修生の中ではある程度は確保できるのかもしれませんが、新規就農という形になった時には、いろんな形態が、要素が必要だろうというふうには思っています。場合によっては、その通っている話が、例えば一つの例ですが農業法人に就職という形になるとできれば近い方が良いっていうのはもちろんその通りというふうには思っておりますが、必ずというわけではなくて近くでもいいっていう考え方もあるでしょうし自らがやるって話になると、できれば近いところっていうところが望ましい姿というのは理想とすれば思っておりますけれども、その辺の対策については空き家活用であるとか、というところが主体的になるのかあるいはそうそういった形が法人がするケースと農業研修生を自らがするケースと、いろんなケースがあるというふうには思っておりますがいずれにしてもそういった形を進めていきたいというふうには思っております。

○近藤委員長 櫃田委員。

○櫃田委員 農業研修生についてはやはり2年間の研修期間があるのでその間にある程度本当に自分が住みやすい農業に生活しやすい農地が近いところ、いろいろ探す時間があります。先ほど町長おっしゃったように、空き家っていうことで空き家も町内本当にたくさんありますし、空き家の近くに住んでおられる方は空き家をなんとかしてくださいよ。という声がたくさんあります。確かに隣が空き家だったら不安的なところもあるかもしれません。警察が来られたようなところもあります。この空き家対策について、やはりもう少し力を入れてされるべきではないのでしょうか。どうでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 いずれにしても今回のアカデミーで寮を建設させていただくと、それなりにひだまりだとか町営住宅だとか、そういったところが空くようになるので、循環っていうか人の流れが選択肢が多くなるということは事実だろうというふうには思っています。合わせて空き家対策って話ももちろん大きなこれからの課題のひとつだろうというふうには認識しておりますが、できるだけ早いうちに登録をしていただくっていうことが、空き家バンクに登録していただくことが一つは活用の出発点になるのかなというふうには思っております。現時点で確認させてもらっているのが、すぐ住まいができるっていう空き家が2個っていうふうには聞いておりまして、それ以外は何らかの修繕が必要だろう、特に水回りとか屋根とかそういったところではないのかなというふうには想定はしますけれども、いずれにしても早めの登録っていうところをまずは推進をして行

きたいというふうに思っております。

○近藤委員長 櫃田委員。

○櫃田委員 たしかに空き家バンクもありますけども、なかなか県外の方がそれを見てすぐ住めるその住むような状況にないところも確かにありますので、やはり確かに空き家の問題は違うその法人ですか、されている部分もありますけれども、ここはその町営住宅の部分も含めて、もう少し力を入れて取り組んでいただいたほうがよろしいのではないかと思うんですけども再度いかがでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 基本的には地方創生を推進して行きたいということになれば、当然、転出の防御じゃないですが転出の抑制ですかっていうこととIターンUターンの皆さんを高めていくって話であります。いずれにしても住まいってところは、当然支出な捉え方にならざるを得ないというか必要なものだというふうに認識しておりますので、そのなかで町内で、できるだけ定住していただくための方策っていうのは重要な位置づけの一つだろうというふうに思っています。以前は仕事っていうところももちろんありましたけれども、今も当然その課題っていうのが残ってるといふふうに認識しておりますが、それを踏まえて、住まいってところは一体的に捉えていく必要があるというふうに思っていますので、いろんな角度の中で、そういった住まいづくりについては、今後推進をして行きたいというふうに思っております。

○近藤委員長 大西委員。

○大西委員 大きく2点質問したんですが、1点目ですが、町長は、その地区の町協さんとの話し合いで同意を得られたと言うような発言でしたが、それでいいんでしょうか。建てることについて理解したと。どうなんでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 もちろん全員ではありませんけれども、役員の上の方の話し合いの中で、先ほど申し上げました内容については同意して頂いたというふうに認識しております。ですから今後は、広くと言いますか、その地域の中の広く、私の方も説明して同意を得るような形の中で地域の皆さん方の同意を図っていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 大西委員。

○大西委員 私は地域の、その地区のありますよ、こういう改修して4人ぐらいの共同生活できるような建物もありますよと聞いておりましたので、そういう方向で自治会の方で話が出て、町長との懇談が終わられたと言う解釈であれば、それ以上言えませんが、一つ、例えばこの寮を建てるとか、そういった時に、どれほど調査されたか知らないんですけども、兵庫県の山崎に兵庫県の林業大学がございます。島根県にも林業大学。そちらの定員が何人で、寮はどれぐらいの人数で、現在どうなったか調べられましたか。

○近藤委員長 坂本農林課。

○坂本農林課長 今言われたところの使用状況等については、あるということは知っておりましたけれども、利用状況については知らないところです。宮崎の方にも新たな林業大学校の寮が建っているということで、そちらは十戸できているということで、使用状況についてはまだ確認はして無いところです。

○近藤委員長　大西委員。

○大西委員　　そこまでこういう建てるときは、ほかの林業、宮崎まで確認するわけじゃなく要するにインターネットいくらでも見れるわけです。島根県、それから兵庫県両方とも就業期間は2年間ですよ、勉強する期間は。日南町1年です。定員の数もわからないですか。兵庫県の定員は1年間何人ですか。

○近藤委員長　　坂本農林課長。

○坂本農林課長　　兵庫県の林業大学校の定員については、ちょっと調べておりませんが、島根県は20名というような定員だったかというふうに認識しております。

○近藤委員長　　大西委員。

○大西委員　　そうです。両方とも定員は1学年20人です。ですから1年2年で40人なんですよ。そして寮は何部屋あるんですか。そこも調べてないんですか。我々民間に居たときはいろんなことを調査して、上司に、こうですよっていうのは普通なんですよ。何が言いたいかということ建てたは、あとで使えなくなったというのを我々を恐れるわけです。要するに定員が20人になったら20人満タンなのか、いや実は募集してる。たしかにね島根の大学校はテレビでコシヤルしてます。うちに個室の完備した寮があると。それを謳い文句に中身の就業の勉強してる姿じゃなく寮をアピールしてるんですけども。そこが例えば定員いっぱい40人ですけれども、定員割れしてないのか定員よりオーバーしてるのか、そうしたときどうするのか。そして今日南町は定員よりプラスアルファ10名から12名、そういったことを総合的に見ないと、実は建てたけど少なかった、実はこうしたけど半分しか入らなかった、いやそれよりもほかの方が良いわとか、いうことがあるので、やはり慎重に充分調査が必要です。先ほど農林課長言われましたけれども、もう少し、そうした調査もいろんなこと、角度、ある程度すぐできるわけですよ。私も今インターネットで2つの大学をパッと見ただけで、すっとわかるわけです。それから寮費であるとか食事はどうするかとか、全部出てます。募集要項の中にも。それぐらい調べてくださいよ。そして提案してくださいよ。何かちょっと浅いような気がするんですが、その辺はどう思われますか。

○近藤委員長　　中村町長。

○中村町長　　寮についての必要性の有無については、やっぱり周辺の住まい環境っていうところも大きく影響するんだろうというふうに思っております。ですから、そういうことと合わせて寮を造るっていうことは先ほど委員おっしゃられたように、定員を確保するっていうことの目的の一つでもあるというふうに思っております。周辺にそれこそ民間辺りも含めて、住まいの有無がどうなのかっていうこともやっぱり大きな要因にはなるっていうふうには思っています。ですから徳島の方にも視察に行かしていただきましたけど、いろんなケースがそれぞれのなかで、地域の中であるんだなというふうには認識しておりますので、特に本町におきましては全体的な流れの中で、住まいづくりというところがまだ充分でないというふうに認識しておりますので、ですから、その学校がある地域の中で、やはり充実した形を取っていく方が将来的な人員確保についても一つの魅力になるのではないのかなというふうには思ってますし、合わせて当然、食べたりとか必要なものがたくさんありますので、そういったところの地域経済にも寄与する部分はあるというふうに思っておりますので、そういった意味での将来的の観点で、合わせて多くの皆さんが現状からいくと町外から来ていただいているっていうところが実態があります。鳥取県西部の

方から町外だけど鳥取県西部の方から通勤という形も一部には出てきてるといふふうに思っておりますが、将来的には冒頭申し上げましたように広域的なところの中で役割を進めていきたいといふふうに思っておりますので、定員あたりもどこかで拡大ができるそういった形で目指して進めていきたいといふふうに思っております。

○近藤委員長　大西委員。

○大西委員　今、最後の町長の揚げ足を取るようですが、将来は定員を増やしてきたような話も出ましたけれども、そうするならば建物も将来展望を見ないと、増築増築という考えもあるんでしょうか。

○近藤委員長　中村町長。

○中村町長　ですからその時の町内の動き、状況っていうのを加味しながら場合によってはそういうこともあるっていうふうに思っていますが、ただ現状の中で、数字上が言える状況でありませんので、ですから流的には周辺地域の皆さんの担い手としての林業アカデミーの位置づけを高めていながら、定員を拡大をするっていうことが可能かどうかということにらみながらということです。ですから、よりアカデミーの質の充実っていうことだとかそういったところがこれからの求められるものだろうといふふうに思っておりますので。ですから仮にそうなった時にはどういう形ができるかということは、そのときの状況を見ながら判断すべきだろうといふふうに思っております。

○近藤委員長　岩崎委員。

○岩崎委員　多里の地域に造るということなんですけれども、先般この委員会でも町営住宅の調査を昨年12月行いました。伯南団地ときりしま団地の方を見させていただきましてそれぞれ空き部屋もあるというような状況でございました。それから実際にこの林業アカデミーのことを考えますと近くであれば多里の町営住宅あるわけですし、今の利用状況という中でなかなかこの実際に町営住宅が十分に活用できているような状況ではない、それが現状であります。そういうようなところに新たな建物を造る、そこに人が入る。なぜ町営住宅をもっと利用しないのか。その単純に考えますと思うわけなんですけれども、この辺りの考え方というのをご説明いただきたいと思えます。

○近藤委員長　中村町長。

○中村町長　現時点ですけど町営住宅も含めてですが121戸あるといふふうに思っています。それは県営住宅も含めてですけども。あるいは、ひだまりとかそういったところも含めてですが。現在そのすべての中の121のうちの約91%が入居しておられて、という状況であります。概ねです。ですから11戸空き家があるという話ですね。点々いやおかしいですが団地の中の一つ一つを積み上げるとそういう数字になります。ですからある意味では、どこの何が一番いいかっていうのはちょっと基準点はよくわかりませんが、ただ来年度あたりのアカデミーだとか、農業研修生辺りの今住居の調整中って話もしておりましたけれども、基本的には、その中のうち4戸ぐらいは研修生が入っていただくっていうことの今調整中ですので、結果的にはイコールになるかどうかは別として。ですから、いずれにしても転入してくれる皆さん方っていうのが少しずつ増えてくるんだろうといふふうに思っていますし、また重ねてになりますけど地域おこし協力隊もそれ以外にも予算上の話ではありますけれども、9人ぐらいを予定させていただいておりますの

で、そういったところの住まいを提供してあげないといけないという状況になるというふうに思っています。ですからそれを繰り返し繰り返し話になると、本人の希望選択肢を広げてあげるといことも一つの役割だろうと思いますので、できるだけその町営住宅の方の入居の方もお声かけをさせていただくことはこれからも続けていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 もう 90%以上が入ってるということなんですけども、ちょっと資料が古くてあれなんですけど、去年おとしですか3年9月27日の、この会で説明を受けたときはかなりの20戸近い空き部屋があったと言うようなこともあります。それ以外にも、この辺りの考え方いわゆる住宅の関係は建設課が所管をしているわけでございますけれども、今、農林課からこういう提案がきてるわけなんですけれども、そこら辺りの住宅の利用状況、そういうものをしっかり建設課の方との調整、情報の交換というのはなされているものかどうか、それを確認させてください。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 先ほど申し上げましたように、ひだまりだとか、あるいは空き家、町営住宅、それから石見西というような一般的に回転する中で、というところがありますのでそういったところの情報をしっかり取りながら、今後、来年度入ってこられるようなアカデミーの皆さん、あるいは農業研修生の皆さんとも、希望を聞きながら。というのは個人の場合と世帯とかいろんなケースがありますので、そういったところを情報共有しながら進めさせていただいております。ということだけはお伝えして、今後もまたその辺は確認させていただきながら、できるだけ本人の希望が、あるいは研修先の位置的なところもあったりしますので、そういったところを加味しながら、総合的にこの辺はどうですかというお話をさせてもらって、進めさせていただいているというふうな現状であります。

○近藤委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 そういうような状況であればいかような形で住宅を確保するというのが必要だと思うわけです。もちろんこういうような寮的なあれもあるんですけども、もちろんその空き家の活用ということもあります。何が今残念かといいますと、その空き家活用に対しての現実的な組み立てというのが町としてできていない。言葉だけが先歩きして、実際に空き家活用に対しての助成制度をつくりながら、あるわけです。空き家バンク制度もありながら、なかなかそれがうまく動いてない。そういう現状もあります。そのあたりも、これと合わせてやっぱりやっていくことによって学生である場合なんですけど、卒業されてから町内に残るとい時には必ず定住のための住宅も必要になるわけです。やはりその一つではあるんですけども、考え方としてやっぱり全体をこう見ていただきながら、しっかりと人を育て定住していただき活躍して行く場、というのを、ストーリーを考えていただきたいと思います。もう一点伺います。この寮を作る時に財源として森林環境税ですか、これを使われるということなんですけれども、ちょっと心配なのが、こういうその色がついてるかどうかかわかんないんですけども、例えばこの環境税を使って建てたもの、それが他のものに転用できるかどうかということを確認したいのです。と言いますのも、ひだまりの家建ったときに県の一部補助金を使ったということで、建物の中に県内の方は入れないと言うような足かせがつくわけですよ。いわゆる空いていても特定の人しか入れない、そういうような状況が生まれてくると、このせつかくの施設が有効的な活用ができないと思いま

す。他に森林環境税ですけど本来は、そういう学生を研修させる施設にもいいんですけども、直接的にあまりに関わる方々が林道作ったりとか、高性能林業機械を買ったりとか、いろんな場面で使える使うことができるわけですよ。そこらあたりも考えながら、ひょっとしたら町営住宅も林業研修生が入るけんということで町営住宅の改修にも使えるんじゃないかなんて思ったりもするんですよ。実際町営住宅を直すのにも財源がない財源がないというようなところで、非常に困ってるわけですよ。もう少しこう考え方を柔軟に検討していただくことによって、この環境税もうまく利用できるんじゃないかと思うわけですよ。ということで、ちょっと財源として森林環境税を使った場合の建物の他への転用的な考え方、できるかどうか確認させてください。

○近藤委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 環境税を使った建物ということになりますと、ある一定の縛りというものが出てくるというふうに認識しております。林業関係者の担い手である、そういった方に活用するということになるかと思っておりますので、一定の縛りは出てくるというふうに思っておりますので、正直なところ農業の方や一般に、その日南町に来られたという方に貸すということは難しいというふうに認識しております。

○近藤委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 そういうことなんです。将来が悲観するわけじゃないです。ほんとだったらこうねどンドン広がっていけばいいんですけども、現実そうなるかっていうのは誰も保証もできない中で、やはりリスクの少ないこと、それを財源を使うというのはやっぱりこういう情勢でございます。そこらあたりもしっかり考えていただきたいと思っております。どうですか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 森林環境税の用途につきましては、大枠の話は国の方から出てきておりますので、林業にまつわる様々な、今までもありましたけど、これからもその辺は活用ができるっていうふうに思ってますし、また環境税自体も以前お話ししましたけれども、また見直しをされてくるっていうような情報も入ってきております。ですから多少、当初からの金額よりも増額になる可能性はあるのかなというふうに思っておりますが、現時点ではまだその辺が、これからの国の動きでありますので詳しいことはもちろん言えませんが、柔軟な捉え方ができるというふうに思っておりますので、多少その縛りが全然無い限りはそうでもありませんけど、林道事業であるとか林業機械のリースの事業であるとか、森林教育的なところだとか、様々なところにも活用ができるというふうに思っておりますので、あと寮につきましては、そういう懸念ができるだけならないように当然努力をして行く必要性はあるというふうに思っておりますので、そのことはお誓い申し上げたいというふうに思っております。

○荒木委員 だいたい皆さん意見が出ております。前回委員会として当然空き家とか町住宅を使いましょうという採決までしたわけですが、私は今の情勢を見て、やっぱり全国的に見てやっぱり日南町に生徒が集まっていたかなければ、先行きは全然成り立ちませんのでやっぱり寄宿舍というか寮をきちっと整備して募集をするというふうに賛成を致しましたが、その規模であるとか場所であるとか、やはりある程度具体的なものをもう少し精査していただきたいというふうに思います。気持ちとしては前回いただいた資料の中では宮崎林業大学校宿舎と言うので規模的には1億円ぐらいの寄宿舍ということですが、今、日南町林業アカデミー募集定員10人です。全

員分をするのか、それともこの中でも自宅から通うと言う人もおられるわけですから、6室とかというような規模でもいいんじゃないかなというような個人的には思っておりますし、場所としてもPFIで募集した土地なんかであれば6室ぐらいの住宅で済むんじゃないかなと言うふうに考えておりますが、町長はどのようにお考えでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 今定員はご案内のように10人という形で現在は進めさせてもらっておりますが、現場のほうでは科目実習生という表現かな、実習生という形の中で、年によって違いますけど2人とか3人とかそういう方もおられます。どちらかという町外からの方ですので町内でどこかに住まいを求めるという方ではあります。ですからそういった状況下にはありますので、定数だけではなくて、様々なことを考えていく必要性はあるというふうに思っておりますし、また物価高騰、物も上がっているというような状況がありまして、まだ決めてはおりませんが、当初予算の段階ではとりあえず設計管理の方を出させていただきたいというふうに思っておりますし、その辺の動向を見ながら設計の中の状況も見ながら工事費の方は補正予算の方で対応させていただきたいというふうに思っておりますし、基本的には現時点では10戸、あるいは多里地内の方というふうに今思っておるところですが、その辺の実態も地域の皆さんとも話し合いをさせていただきながら、最終的なところの方向はまた皆さん方にもお伝えをしていきたいというふうに思っておりますので、今本当に工事費がかなり上がってきている状況が続いておりますので、現時点では先ほど10戸で1億円という宮崎の事例がありましたけど、1億円では立たないような状況が進んでおりますので、そういったことと環境税の税金との兼ね合いを見ながら、その辺の個数を進めていきたいというふうに思っておりますが、現時点では10戸ということで目標として考えておるところであります。

○近藤委員長 荒木委員。

○荒木委員 当初設計を上げてということですが、今、多里地内におっしゃったようなことですが、多里地内の例えば10戸の寄宿舎を作った場合、今どういうふうに最終的に今、多里地内で10戸そのまま空き家になってしまうような雰囲気もするんですが、そのちょっと心配するんですが、実際に場所を選定は多里地内で決定するつもりでしょうか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 現時点で私が思っているのは、多里地内でお世話になりたいというふうな考え方を持っています。以前この会の中で現場の声ということもお伝えさせていただいたというふうに思っておりますけれども、若い人、高校卒業の皆さんも多いうような状況も鑑みながら、できるだけ学校に徒歩で行けるというのを、という環境もひとつのあり方ではないのかなというふうには思っておりますので、現時点では多里の学校の敷地の一部を活用するというのも一つの案として私は思っておりますので、そういったことも地元の皆さんには説明をして同意を得ていきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 荒木委員。

○荒木委員 多里地内、元学校地内の跡であれば例えば就業のベルがなってから走って行っても間に合うかもしれないです。ですが私思ったのは、その前の要望書の中で地元の方の協力で要するに食事の提供もできるよ。というような要望書の中にあっただけですが、町長その上の幹部の

方とお話をされて、そういう話はどういうふうな方向に進んでいるのですか。

○近藤委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 地元の方とお話ししたのは、町長ではなくて私の方だったんですけども、そういった協力もできるということで、その事につきましてまだ具体的な話は詰めておりません。多里の方でお世話になればというような町としての方針の方は一度お話をさせていただいておりますが、まだその中で、例えば弁当の方、今時点でもアカデミーの方は多里のホームランドの方に弁当の方毎日お世話になっていたりというふうなことがありますので、それに加えて夕食までと言うところだと思うんですけども、そこについてまだ詳細なお話の方はしてないというような状況です。

○近藤委員長 荒木委員。

○荒木委員 以前にも申し上げたように、生徒の中前回は高校生が多かったと言うことであったわけですから、当然食事の提供というのは実際にお父さんお母さんにすれば大変助かるような気が致しますけども。私としては、そういう若い人が入って来られるような環境を作るのは大変いいことだと思いますが、場所の選定も含めてもう一度詳しいのをまた説明をしていただきたい。見積もりを今回の予算に出されるということですから。ですよね。今回の金額がかなり今私が1億ぐらいと言った時に、もっとかかりそうな町長のお話でしたが、その辺について、またその説明をもう一回委員会の時にざっとしていただけるでしょうかね。予算審査の前。だって予算審査を始めてしまえばもう、やめることにはならんから。ならんでも金額的には大変なことになりますよ。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 先ほど申し上げました基本的な内容については、その方向で進めさせていただきたいというふうに思っていますが、それこそ先ほど申し上げましたように様々な費用が高騰するなかで、今までが例えばイメージですけど、そのアパート的なところを作るには外交もふくめて約1戸当たり1,000万円というようなイメージが持っておりましたけれども、それが多分倍にはもちろんならないというふうに思いますけれども、それなりの高騰があって、あるいはこれからも多分高騰してくんじやないのかなというふうなイメージがありまして、ですからその辺を進捗その単価的なところも含めて状況を見ながら考えていきたいというふうに思っていますので、とりあえず今回は当初予算の段階では設計というところの中で、設計監理という費用をお願いをしたいというような考え方で計上させていただいておりますので、その辺の動向を見ながら例えば金額に、総事業費において例えば今10戸というふうに私申し上げましたけど、場合によっては9戸って話にあるいは8戸って話にもなるかもしれませんが、それは全体事業費の中でやっぱり財源ということもありますので、基本的には10戸という形でまず検討を進めさせていただきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 まずその多里地域の役員の方の同意をとという話がありましたが、その時期はいつだったんですか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 私が直接ではなかったですが、職員の皆さんがお話をさせていただいたという経

過でありまして、期日につきましては2月10日です。先日ですということです。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 この委員会として前回その新しくアカデミーの寮っていうのは必要ないではないか。既存の町営住宅、あるいは石見西などを利用して、そこに生徒の皆さんに入ってもらえばいいじゃないかという方針を決定をしました。それをしておる状況の中で執行部は多里地域に新しく多里地内にアカデミーの寮を建てますよっていう話をされておりますが、これはどういうスタンスなんでしょうか。この委員会の方向を全く無視をされている状況だと思いますがいかがですか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 基本的に私の方で現状と今後の展開という状況が様々な分野の中で住まいていうところが少なくなってアカデミーとか農業はもちろんそうですが、それ以外の皆さんが多く来られている状況が昨今見受けられるうち、行政としても協力隊あたりも先ほど申し上げましたけど、多くの皆さんをこれから募集しながら呼び込んでいきたいというような流れがある中で、やはり住まい自体を別のところで作るっていう考え方もありますけど、なかなかないっていう話もありますので、一つの財源的なところもありますので、活用できる財源もありますので、そういったところで確実な林業の方の担い手を担保するっていう形を方向転換するのが望ましい姿ではないのかなというふうなことで、私の方が指示させていただいて地元の考え方もどうでしょうかっていう話の流れにさせていただいたということで、ご理解いただければと思います。確かに町営住宅とか、そういったことの活用というのはもちろんこれからも必要だろうというふうに思っております。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 全員が構成するこの委員会として、方針を決めたわけですが、それに対して全く説明も無く町長独断で多里地内に建設しますよという話を進められること自体について具体的に説明がなかったわけですが、どういう考えなんでしょう。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 すみません。若干私の方が勇み足部分があったというふうに思っておりますが、私が前回のこの会議の最終結論というところの中での考え方を十分に整理してなかったということは反省させていただきます。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 やっぱりそこまで、なぜきちんと伝わってなかったのかということが一つの課題でありますし、1月1日に私と議長が町長に申し入れをいたしました。議会にも十分な説明が必要だということでもあります。ですから議会として、委員会ですけれども全員が参加する委員会でも方向を決めたのちに町長が単独でそれと違った方向に動かれるっていうことは非常に不本意であります。充分猛省をいただきたいと思います。後に戻りませんので次に行きますけれども、先ほども町長、地域協力隊、農業研修生それを含めて住まいが住宅の課題があるというふうに言われましたが、これで林業アカデミーの学生に限定をした建物が本当に将来にわたってベストなのかどうなのか、どうなのか。公共施設等総合管理計画に照らして、あるいは行財政改革の新しい建物をつくる時には最大限、現状のものを活用するという方針。これらに照らしたときにも私は

多里地内に林業アカデミー専用の住宅、寮を作るべきではないと。もっと広範な人たちが利用できる、それは1年2年の短期滞在の短期と言いませんが1年2年の住まいもあっていいと思いますし、もう少し長いスパン3年5年で新しい住居を構えるまでの入居者っていうところも必要だろうと思います。森林環境譲与税につきましても、使い道はいくらでもあるわけですよ。林業、森林整備について。林道あるいは作業路の整備。あるいは持ち出し支援金のかさ上げだっていいじゃないですか。非常に林業関係者、林業全体、林業従事者は充実しておりかもしれませんが、山主は十分な所得と変えられない。再生林に向かえない状況です。再生林だって森林組合と合わせて5年間までは作業してもらえますけども、さらにその次の除伐まで行ってもいいじゃないですか。使い道はいくらもあるんです。ですから林業アカデミーに限らず、もっと広範な住宅整備を必要だと思いますし、既存の建物だってあるわけですからかすみ荘の使い方も福祉に限定されるのかも、考えておられるかもしれませんが、例えば山上にある大草荘だってそうです。もっと既存の建物、そして空き室である町営住宅を、町が家賃補助してでもアカデミーの生徒に入っていたら、そういう活用をどんどん考えなければ将来にわたっての住宅政策、あるいは町政全体のまちづくり、そういった面からもっと慎重に幅広く考えるべきだと思いますがいかがですか。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 森林環境税の使途につきましては、委員先ほどおっしゃられましたような内容っていうのは今後も活用ができるというふうに私は認識しておりますし、基本的には林業全体のこれからの進捗っていうところの中で活用して行くべきだろうというふうに思っています。また譲与税自体も先ほど申し上げましたように、若干つつでもあがっていく可能性があるっていうふうに思っていますので、その辺は視野においておるつもりであります。ただやっぱり住まいって話になると、先ほど同じような繰り返しになってしまうのかもしれませんが、町営住宅でも空き家部分をこれから活用するような実態が令和5年度にはあります。ですからそれがこれから継続する中で申し上げると、やっぱりどこかではやっぱり不足っていうところが想定されるというふうに私は認識しておりますので、ですからそこを回避するがためにも特定のところの目的が10人とか集まる可能性が高いわけですから、そこにしっかりとした住まいを作りながら、ほかの地域の現存するものの少しは空室が生まれるかもしれませんが、逆に言えば多少ですが空室の方がやっぱりどこかでは入って、多くの皆さんが入ってこられる可能性がほかの会社の方も含めてですが、ある可能性が、そうするということが大事ではないのかなというふうに思っておりますので、そういった意味での今回のアカデミーの建設については、背景として、あるいは今後の展開としての一つのあり方だろうというふうに私は思いましたので、今回の提案というか、報告も含めてさせていただいたということでもありますので何卒ご理解いただければというふうに思っております。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 矛盾してるんですね、少し。アカデミーの寮には他の人は入れないわけでしょ。先ほど他の会社の人とか空室があれば入れるかもしれんというふうに言われましたけれども。ですからもっと林業アカデミーの生徒に限らず、汎用化する汎用的に使える広範に使える住宅というのがあっていいじゃない。多里地内に限らなくていいと思う。ですから例えばですよ、どうしてもアカデミー専用森林環境譲与税を使ってアカデミーの寮を作りたいということで新築が必

要だと仮にすれば、例えば合築をして、5個6個は森林環境条例を使って建てる。合築ですから一つの建物ですよ。半分は広範の人が入れるような、半分と言いましょか5、6戸はそういう建物を多里以外の地域に、中心地域に近いところで、そうすることによって柔軟な活用もできるじゃないかなと言うふうにも考えます。基本的には林業アカデミー専用の寮は私は必要ないと考えております。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 先ほど私の答弁の中で、アカデミーを作った時に今利用している例えばですが、ひだまりにしても町営住宅にしても、そこが薄くなるわけですから、それ以外で来られた皆さんが会社の皆さんも含めてですが利活用ができるってということという意味で申し上げたので、ちょっと誤解のないようにっていうか私の説明不足っていうことは申し上げたいというふうに思っております。

○近藤委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 地域起こし協力隊についても今後増やしていただきたいと思ひますし、増える計画であります。それらの方々についても対応できるようなことも、併せて検討いただきたいと思ひます。林業アカデミーの寮に限らずですよね。林業アカデミーの寮が全くいけないというふうには言い切りませんけれども、林業アカデミーするだったらほかの人が利用できる住宅政策についても十分な推進を願ひたいです。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 全体的に住まい全体が少なくなるっていうか、窮屈になるっていう状況が生まれてくるというふうに思っておりますので、例えば協力隊あたりも1年ではないので、基本的には3年というような最低でも3年というような制度設計になっております。ですから、毎年毎年その新しく協力隊をこれからの話ですが、設定した時には倍々になるって話でもありますので、そういった意味でのやっぱり協力隊あたりの募集っていうか推進もこれから高めていきたいというふうな想定しておりますので、全体的なところから言えば住まい全体が少なくなるっていうか窮屈になる現状を鑑みて、こういった一つのあり方もありではないのかなというふうな思いがありますので、多様なほかの部分の中の住まいというところもちろん想定しながらこれから推進して行きたいというふうに思っておりますので、アカデミーだけということではありませぬので、これからの住まいづくりは先ほど申し上げましたように、場合によっては中心地整備計画の中でも練っていききたいというふうに思ひますし、以前からちょっと宿題になっている部分もありますので、そういったところの宿題部分の推進もこれから具体的に進めていききたいというふうに思ひますので、ご理解いただくようお願い申し上げたいというふうに思ひます。

○近藤委員長 久代委員。

○久代委員 前回のこの中心地と住宅の特別委員会、私たちは林業アカデミーの寮は必要ないじゃないかという結論に至ったんじゃないですか。委員長にお聞きしますけれども、そのことは当然執行部に伝わっているのではないかと。町長先程、前回の会の結論をよく掌握していなかったというふうな趣旨の答弁をされましたけど。それじゃダメでしょう。一旦特別委員会を全員で構成してるんですから、それが得た結論をやっぱり町長も自分から前回の特別委員会どういふ結論になったかぐらいのことは、しっかりと担当の農林課長なのか副町長なのかわかりませぬけど、

聞き取りをされて、今回、来年令和5年度の設計費を計上する考えと言われましたけども、議会とそこまで齟齬があるような考えでは私は全く理解ができません。例えばね、中心地のことも冒頭に説明されましたよね。だから本当に住宅が絶対数が特に単身者を含めて、住宅が足りないのなら前回私たちは現地調査もしました。そのことを踏まえて同僚委員が家賃保証してでも入居してもらえばいいじゃないかということも言われましたけども、やっぱり町の総合的な住宅政策がものすごく曖昧なんですよ。だから中心地の整備のことも含めて今急ぐ必要ないんですよ林業アカデミーの寮。だってね、このアンケート詳しくアンケート結果を説明されませんでしたけれども、建てる場所についても生山、霞地内が5人ですよ。多里地内が5人ですよ。同数ですから、アンケートに答えられた人は。ですから住宅に対しても不満はないという方と、不満があるという方も同数です。ですから本当にこのリアルな当該のアカデミーで履修して居られる生徒の皆さんのこれがリアルな事態なんです。だから本当に中心地にあるいろんなコンビニとかありますよね。だから多里に限定されることもおかしいし、もうちょっと中心地整備のなかで住宅政策を考えていかれるほうがいいと思いますけれども、再考お願いしたい、求めます。私はこの際。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 このアンケート結果をどう見るかって話もちろん委員おっしゃるとおりだというふうに思っておりますが、その項目の中で、できればアカデミーに近いほうが良いっていう意見もたくさんあるということも事実でありますので、そういったトータル的な考え方の中で、あるいは多里地内にあるべきかなというふうな私も判断をしてもらったというのは、このアンケートの内容を含めて判断すべきかなというふうな思いでありましたので、お伝えをしておきたいというふうに思っております。

○近藤委員長 久代委員。

○久代委員 最初に私は申し上げた件については、町長と当該担当課との前回の特別委員会の結果、結論に対して、もう少しはっきり言って完全に齟齬があると思うんですよ私は。ですから再考をお願いしたいと思いますが、予算審査では間に合わないので提案されれば予算審査でも修正案を出せますけども議会は。だけでも今たちまち急いで設計までする必要があるのかどうか、いうことも含めて再度答弁を求めます。

○近藤委員長 中村町長。

○中村町長 皆さん方の前回の回で、例えば町営住宅を活用するべきではないかというご意見いただいたというふうには私は認識はしておりますけれども、この会の特別委員会の中で最終的にこうだっていう、新しく建てるって話は望まないという結論づけて、というところの感覚は私がちょっと持ってなかったということで確認をしてなかったということは、お詫びを申し上げますというふうに思っておりますが、先ほど同じような繰り返しになりますがこういった環境であるのでぜひ建てさせていただきたいということで本日の会、あるいは前回アンケートの住んでいる皆さん方がアンケートとって見たらどうかって話があったというふうに認識しておりますので、その結果を踏まえて、こういう結果でしたということの本日が提案ですので、そういった内容も含めて推進すべきだというふうな判断を私がさせていただいたということでもありますので、経過的な判断的な経過は説明のとうりだというふうに思っておりますが、ですからそこら辺で少し特別委員会との結論的なところの把握っていうか、その辺が不十分だということは反省はします

けれども、そこを踏まえて、ご意見を賜れば幸いかなというふうに思っております。

○近藤委員長　委員長の方から議会広報とかいろんな形で執行部の方にわかってもらえているという自分の考えでありました。直接的に執行部の方に、こういう結論に至りましたということは申し上げておりませんので、その点についてはお詫び申し上げます。そのほかありませんか。大西委員。

○大西委員　今我々その委員会、今も開いてきて、現地調整あるいは後でまとめた話で、こう乖離があるということは今後の議会運営というんですか、町と執行部のいろんなこうディスカッションどう思ってるか、大きく今までちょっとここ近々にいろんなことありましたので、町長はこうだろうという解釈、地元の方いいよという本当に地元の方町長の耳とで聞かれたのか、いうことなんか私も町長が直に出向いて聞いたような答弁だったもので。ですから私言いたいのは真実を、そしてこの委員会で決議したことをいろんな同僚委員言われました。やはりこの重要視と言うんですか、あそこはもうどんどんやっていただかないと今のずっと委員の意見聞かれてどう思われますか。

○近藤委員長　中村町長。

○中村町長　端的じゃないけど皆さん方のご意見は前回の特別委員会の中でこういうお話方向付けだったという話は、先ほどお聞きしましたけれども、すべて特別委員私が下で見てるかっていやそうでもないので、そこは内部の話だろうというふうに思っておりますが、基本的にはアンケートをとってみたらどうですかというようなご意見があつてこういう形になってきてるっていうふうに思ってた、そこは理解しておりましたので、ですから要はこういった状況も見ながら、結果を見ながらまた意見交換ができるんだろうなという私勝手に思ってたという正直話でありますので、決して議会の皆さんのご意見を無視するとかそういう捉え方ではなくて、先ほど申し上げたような背景なんだろうというふうに勝手に思った言えば、そうかもしれませんけれども、そのへんは今後のあり方として私もしっかり確認をしながら進めさせていただければというふうに思っております。

○近藤委員長　山本議長。

○山本議長　先ほど委員長お断りをされましたけれども、委員長がお断りをされることはないかとわたくしは思っております。放送もしておりますし、課長も出席をしております。先程町長言われましたけれども、それは内部の話でありまして委員長がお断りされることは無いと言うふうに申し上げたいと思います。今日のこの委員会の意見を聞かれて町長どう判断をされるかと言うことが今度予算を提案されるわけですから、その時に明らかになるんだろうと思います。委員の皆様は先ほど皆さんおっしゃいますように、この委員会としての方向性は確認をされておりますので、なかなか予算的にはそれを承認されるという可能性は低いというふうに思います。ですからそれを踏まえて、町長どのように判断されるかというのは、この今度提案される予算の中で予算審査特別委員会の中で議員各位、議論をしていただければいいものと思っております。

○近藤委員長　その他ありませんか。これをもちまして本日の住宅政策及び中心地域調査特別委員会を閉会いたします。ご苦労様でした。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日

委員長

副委員長